

聖書宣教会通信

東京都羽村市羽西 2-9-3 Tel:042(554)1710 Fax:042(554)5562 www.bibleseminary.jp 振替 00150-6-34971

巻頭言

「戦後の福音派と聖書神学舎の役割」

－聖書信仰を高くかけて－

新潟聖書学院院长 **中村 敏**

「こういうわけで、このように多くの証人たちが、雲のように私たちを取り巻いているのですから、私たちも、いっさいの重荷とまつわりつく罪とを捨てて、私たちの前に置かれている競争を忍耐をもって走り続けようではありませんか。」(ヘブル 12:1)

私は、1975年に浜田山時代の聖書神学舎を卒業した者であり(第16期生)、十年ほど前から舟喜信先生の跡を継いで新潟から通って日本キリスト教史を教えております。

最近二つの作業を通して、戦後の日本の福音派の歩みの中で聖書神学舎が果たしてきた役割を考えております。一つは、私が今秋にいのちのこば社から出版予定の『日本プロテスタント神学校及び神学教育の歴史』です。これは戦前・戦後日本に存在したすべての神学校とその教育の歴史をまとめたもので、その中で聖書神学舎の歴史と教育について三頁ほどにまとめました。

もう一つは、今改訂作業がなされている『日本キリスト教歴史大事典』(教文館)のために、聖書神学舎関係の先生方の項目の執筆を依頼されたことです。舟喜順一師、舟喜信師、井出定治師、島田福安師、岳藤豪希師についてまとめています。その肉声に触れ、じかに御薫陶をいただいた先生方について、事典に歴史上の人物として客観的に執筆するのは、いささか複雑な思いです。

こうした作業を通して、聖書神学舎は戦後の福音派の歩みの中でどのような役割を果たしてきたのかと考えました。聖書神学舎が1958年に開校した時、創立に関わった方々によって「日本の教会に祈られ、支えられ、仕え、日本の教会のために卒業生を送り出す」という基本路線が強調されています。日本の福音派、しかも特定の教派やミッションを母体としない超教派の神学校としては当然と言うべき理念ですが、今振り返る時そのことを大切に守ってきたからこそ今日まで続いてきたと言えると思います。

戦後の福音派は日本福音同盟を主軸として活動し、五回の日本伝道会議を中心として、歴史を刻んできました。

そうした中で、私の見た範囲では、舟喜順一先生はじめ先生方や卒業生の多くは、その先頭に立って号令をかけるような存在ではなかったように思います。

1970年代から80年代にかけて、福音派の神学校関係で三校合同問題やATA(アジア神学校協議会)による神学校間の協力という動きが脚光をあびた時、結果として神学舎はそれらには加わずに自主独立路線を歩み、文部行政の恩恵を受けない宗教法人化への道を最終的に選び取りました。

しかしこの頃福音派で大きな課題となった聖書論論争において、舟喜順一先生、後藤茂光先生等聖書神学舎の先生方がJPCや福音主義神学会その他で無誤性の教理を守る妥協なき戦いをされていたことを思い起こします。こうした神学舎の存在は、ある方々から見れば純粹ではあるが孤高であり、融通がきかず、水準が高すぎるという批判を受けたかもしれません。しかし創立以来今までおれることなく、「聖書信仰という不動の原点をしっかりと保持し、次世代に伝え」(後藤茂光師の言葉)て来たところに、神学舎の役割と使命があると思います。

今時代の変化に伴い、憲法を改憲しようという動きが活発になってきました。同様に聖書観についても、もっと柔軟に幅広く解釈してもいいのではないかという傾向も見られます。しかし今放映されているNHKの大河ドラマ「八重の桜」のキャッチフレーズではありませんが、「ならぬものは、ならぬのです!」と、福音主義の不動の原点である聖書信仰をこれからも高くかけ、守り、発信していく、そこに聖書神学舎の存在意義があると思います。



……………2013年度夏期伝道実習の報告とあかし……………

キャラバン委員長 田中 秀亮 ひであき

キャラバン伝道実習のためにお祈りくださった皆様、キャラバンチームを受け入れてくださった関係者皆様に心より感謝申し上げます。

今年度は第一ペテロ 3 章 11 節から「神があがめられるために」というテーマを掲げ、岩手、奈良、熊本に 3 チームを派遣しました。被災地支援における宣教、超教派キャンプ場をもつ青少年の世代への宣教、地域教会の宣教と様々な角度から日本の宣教を見て、またそれに携わる機会が与えられました。私たちの学びはとかく机上に終始しやすいため、宣教の現場に身を置くことができたのはとても有意義な経験でした。それぞれが得たものを日々の学びの中でさらに深めながら、神をあがめる者としてふさわしく整えられていくことを願っています。

ともしび聖書キャンプ場（熊本県）

日程：7月11日（木）～23日（火）

参加者：輪田 豊、末吉 文、高野 望

約十日間の旅は私たちの期待をはるかに越えた、感謝で満ちたものになりました。

子供キャンプから始まり、松崎牧師の教誨師としての働きの見学（少年院）、熊本の地域の青年たち、また島原のゴスペル隊の皆さんとの交わりやあかしの分かち合い、礼拝での説教や特別賛美など、実に多くの方々との出会いに恵まれ、様々な奉仕をさせていただきました。キャンプでは遠くからも子供たちが集められ、豊かな自然の中でのびのびと遊び、聖書の話真剣に聞く子供たちの姿がありました。「この子供たちがまことの創造主を知るように。」私たちは心からそう祈りました。また、九州各地から奉仕者が大勢来られるのを見て、多くの方々／教会の祈りと助けによって運営されている、その祝福に満ちたキャンプ場のあり方に感動しました。

多くの方々に祈られ、助けられた旅。共に主の恵みを多く分かち合った旅。全てを備え、この旅を豊かに祝福してくださった主に心からの感謝を捧げます。（高野）



いっぽいっぽ釜石・大槌（岩手県）

日程：7月15日（月）～21日（日）

参加者：田中秀亮、前原将太、依藤 慎太郎

私たちは岩手県の釜石市で、被災地支援活動をする「いっぽいっぽ釜石・大槌」を訪ねました。

福音の全人格的な豊かさを体現する働きにわずかでも与りたい。それがチームの祈りでした。現地では代表の高橋和義先生も「外来者だからこそ出来る支援がある。キリストのかおりと愛をもって地域に寄り添いたい」と奉仕の心を整えてくださいました。

具体的な活動は、午前中は仮設団地の談話室にて、茶菓を用意しつつお話を何う「お茶っ子サロン」。午後は児童たちの学習支援でした。高齢の方々の被災体験に祈りつつ傾聴し、懐メロ（!?）や讃美歌を共に歌いました。子供たちの宿題を手伝い、その後は一緒に全力で駆けっこしました。

共に泣き、共に笑う体験を通し、傷んだ地での福音の体現に悩みつつ、その実践を試みました。

最終日は内陸の水沢聖書バプテスト教会の礼拝にて、「教会の姿（使徒 2:43～47）」が説教され、まさにキャラバンの意義を確かめ主を崇めました。（依藤）



.....

奈良福音自由教会

日程：7月22日（月）～29日（月）

参加者：小幡 壘、高宗昭雄、横田 真理恵

「一体感がないね～」、出発時のチーム写真を撮ってくれた先輩に言われた一言である。確かに、奈良チームは三者三様。研修生最年少、最年長と、その間という一見何の共通点もない三人がチームとなった。

しかし、私達が遣わされた奈良福音自由教会はこの「一体感」という言葉がしっくりくる教会だった。滞在中に、「夏祭り」という子供向けの伝道イベントが行なわれた。多くの教会では、CS 教師が主にもしくはほとんど労を担うであろうイベントだ。この教会ではあらゆる世代の方達がこのイベントを支え、一体となって動いていた。地域の子供達への伝道をそれぞれ自分の重荷として

担っている印象を受けた。

奉仕としては、チラシ配布に始まり、教会学校、礼拝説教、「夏祭り」での寸劇等させていただいた。

私達も見た目の一体感の無さとは裏腹に、それぞれの違う賜物を用い、お互いに仕え合うことで結果的に一体感があるチームになったと感じる。

（小幡）



.....<卒業生の働きの現場から>.....

野上 綾男（西成めぐみ教会）

釜ヶ崎に遣わされて23年になります。釜ヶ崎には百年を超える歴史があり、戦後スラムから寄せ場（日雇労働者市場）に姿を変えてきました。産業構造の変化に伴い多くの失業者が、また近年は不況下にリストラされた人たち、心を病んだ人たち、また家庭崩壊等で居場所を失った人たちが、仕事や避難所を求めて釜ヶ崎にきています。この地域は単身・男性・高齢者の街で、共同性が失われていて、多くの人たちは郷里との関係を断っているの、孤立した孤独な生活になっています。釜ヶ崎は被差別地域ですが、日雇労働により自活する人たち、社会保障で生活が支えられている人たち、そして野宿でシェルターや炊き出しの利用を余儀なくされている人たちの相互の間にも、格差と差別があります。

私は高校在学中に釜ヶ崎の実状を知る機会があり、その後、釜ヶ崎での福祉と宣教の働きへの思いが起こされました。その頃より、伝道と隣人愛の教えに基づく社会的な働きは、車の両輪の如き関係にあるものと考えていましたが、神学舎在学時に開かれたローザンヌ世界伝道会議での誓約第5項「伝道と社会的責任」により、改めて聖書的な両者の関係を学び、励まされてきました。

伝道の当初より釜ヶ崎での働きは、諸教会の祈りに支えられ主の教会を通してなされていく主のわざの一つであることを確認させられてきました。西成めぐみ教会においては、出会う方々の救いと、生活の必要と、社会的な回復を目指して、みことばに仕えてきました。そして深刻で複雑な背景を背負っている方々が、福音によって救われ、就職・家族との和解・行政的支援等により、社会的な回復がなされてきています。

私自身のこれまでの歩みは、欠けと失敗の多いものでしたが、召して志を立てさせ、それを全うさせてくださる神を見上げて、今日まで支えられてきました。

夏期研修講座に参加して

川口 達也 (岡山聖約キリスト教会)

卒業後 17 年目を迎えた中での初参加。ぎりぎり卒業させていただいたという感があり、何となく怖くて近づけなかった神学校でした。

小学生から通っていた母教会への派遣でしたので、当初から想定していた問題を念頭におきながらの奉仕でした。諸問題も解決し、教会も落ち着いて来た今、逆に牧会のベクトルのようなものを見失った気がしていました。

正直、研修会のテーマに惹かれたというわけではなく、皆さん何をしていらっしゃるのだろうと覗きに来た感じです。「説教」の学びは、そんな私にとっては参加しやすい無難なテーマでした。

ギリシャ語やヘブル語の並んだレジュメ等の資料は、日頃勉強不足の私にとって大きな助けになりました。やはり自分は、ぎりぎりだったのだと思います。講義の中で、一番新鮮で励ましになったのは、講義をされた先生に対する、他の先生からの鋭い質問、あるいは追求でした。講義の内容も素晴らしかったのですが、聖書のみことばそのものにここまでこだわる場面に出くわす機会は、日常の中では稀です。

唯一近いのは、毎週のメッセージの準備くらいでしょうか。主のみことばに聴き、従い、伝えていく。これが、自分の牧会の出発点であり、力の源なのだと確認することができました。また参加してみたいです。

日高 直樹 (油津キリスト教会)

“あなたがたは、私たちから神の使信を受けたとき、それを人間のことばとしてではなく、事実どおりに神のことばとして受け入れてくれたからです。” I テサロニケ 2:13

36 年前に、教会に赴任した時、役員会にお願いしたことは、「聖書神学舎夏期研修講座」への参加でした。それ以来、36 年間教会が予算を取ってくださいました。私が講座に出席する目的は①聴講生として学びの継続ため（私は全科目聴講生です） ②牧会の姿勢を正すため ③現代の教会の動きを知るため（田舎にいと情報不足になりやすい） ④参加された先生方との交わりのため ⑤講師の先生方に質問したり、普段疑問に思っていることを聞くため ⑥上京して、元教会員や信仰の友を訪問して旧交を暖めるため等です。

今回の夏期研修講座は「説教と説教者」というテーマで講師の諸先生方から、説教の原点を教えられ、説教の姿勢を正されました。特に説教は「人間のことばとしてではなく、事実どおりに神のことばとして」語られるべきこと、それゆえに、説教の準備をするとき、主の前に恐れおののきつつ、御霊の助けをいただきつつすべきであることを改めて問われました。説教をする者も聴く者も神のことばとして語り、神のことばとして聴かなければなりません。ただ、ただ主のあわれみを求めるしかありません。講座に出席する度に、はじめの原点に引き戻され、みことばから離れることのないようにと示されるのです。準備をさせていただきます神学舎の先生方に心から感謝します。私にとってこの夏期講座は大切な自己研鑽の場です。感謝です!!

..... 教会音楽夏期講習会に参加して

仲村 貴江 ^{ちやたん} (北谷教会)

奏楽者として、より良い礼拝へと考えを巡らせて行く中で、賛美する事の重み、重要さを感じるようになりました。より良い賛美を主にお捧げするにはどうしたら良いのかを考え、それを解決するには教会音楽を学ぶのは良いきっかけになるかもしれない。そう思い、友人の祈りに支えられ、今回初めて講習会に参加しました。

講義では、様々な時代・角度から、その時代に生きた人々がどの様に礼拝・賛美を捧げ、仕えていたかを学ぶ良い機会が与えられました。そして分科会では、自分自身の中でみことばを深めて行く事の豊かさを学びました。テキストである聖書のことばを何度も読み、よく噛んで消化し、掘り下げ、口先ではなく、心を尽くした、告白の賛美でなければならない。その為には、日頃のデボーションの在り方も見直す必要があると反省しました。合唱の時間では、全国各地で、主に仕える方々と共に主を誉めたたえることの出来る喜び、そして、色々な作曲家の音楽と信仰に触れ、心が震えました。取るに足らない欠けだけの私をこの場に導いてくださった神様に、内から感謝が込み上げて来、思わず涙が溢れてしまいました。学びを終えた宿泊先でも、夜遅くまで奉仕について語り合い、恵み深い時となりました。期間中、全てのプログラムにおいて、忘れる事の出来ない貴重な経験をさせて頂きました。熱心に御指導くださった先生方、裏で支えてくださった関係者の皆様に心より感謝と御礼を申し上げます。

.....

「オープンデイ」のお知らせ

11月9日(土)

オープンデイは、授業や礼拝にどなたでも出席いただける「公開授業」の日です。申込は不要です。見学などの機会として是非お用いください。皆様のおいでを心よりお待ちしております。

「賛美礼拝」のお知らせ

11月30日(土) 14:30

今年も下記のように賛美礼拝をささげます。共に主をほめたたえ、礼拝する特別な機会です。どなたでもご参加いただけます。是非お誘い合わせてお出かけください。

	I ~ II 8:20~10:00	10:05~ 10:35	III ~ IV 10:50~12:30
1年	組織神学II(神論) (鞭木由行)	チャペル	旧約通論 (久利英二)
2年	旧約研究I(五書) (津村俊夫)		新約研究I(福音書) (三浦 譲)
3年	宣教学II(異教・異端) (赤坂 泉)		組織神学VII(終末論) (横山昌英)
4年	新約研究II(使徒の働き) (久利英二)		旧約研究IV (松本任弘)

(上記内容については、当日変更となる場合もあります。)

テーマ：わたしこそ神であることを知れ

聖書：詩篇 46 篇
説教：鞭木 由行

曲目：

Wachet auf, ruft uns die Stimme 起きよと呼ぶ声がする
Ein' feste Burg ist unser Gott 神はわがやぐら
(J.S. バッハ、プレトリウス、M. ヴルピウス)

全地よ 三重唱(岳藤豪希)

新作賛美 他

演奏：合唱、重唱、オルガン

詳しくは、聖書宣教会のウェブサイト <http://www.bibleseminary.jp/> の「行事や予定など」-「行事のご案内」をご覧ください。

編集後記

この国と今の時の世界のためにさらに熱心に祈らされた夏でした。為政者ばかりでなく、教育現場における闘い、マスメディアの良識、そして同胞のためにも

祈り続けたいと思います。主にある大勢の皆様とともに。(A)